

氏名	羽 田 元
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 599 号
学位授与の日付	昭和60年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	肝細胞癌における HBVDNA の組込み
論文審査委員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 小田琢三

学位論文内容の要旨

近年の分子生物学の進歩により、肝細胞癌(HCC)の肝細胞ゲノム中には、高率にB型肝炎ウイルス(HBV) DNA が組込まれていることが示されているが、HBV-DNA の組込みの陽性率と、血中 HBV 関連抗原・抗体系との関連性については、一定の成績が得られていない。サザン・ハイブリダイゼーション法により、HCC 14例、慢性肝炎3例、転移性肝癌2例及び健常肝4例の計23例で、肝組織中 HBV-DNA の検出を試みた。血中 HBsAg 陽性の3例及び HBsAg 陰性かつ HBV 関連抗体陽性の2例の計5例の HCC に HBVDNA の組込みが認められた。組込みのパターンは、症例ごとに異っており、癌部・非癌部の比較では差はなかった。HBsAg 陽性の慢性肝炎3例では、free のHBVDNA のみ認められ、組込みは存在しなかった。転移性肝癌及び健常肝の肝組織中には、HBVDNA は全く存在しなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は分子生物学的手法を用いて、肝疾患等について、B型肝炎ウイルス(HBV)-DNA の組込みの陽性率、血中 HBV 関連抗原・抗体系との関連性について検討し、肝細胞癌14例中血中 HBsAg 陽性の3例及び HBsAg 陰性かつ HBV 関連抗体陽性の2例の計5例に HBVDNA の組込みが認められ、かつ組込みのパターンは症例ごとに異っていることなどを明らかにしたものであって、癌発生と HBV との関係について重要な知見をもたらした価値ある業績であると認められる。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。